

鹿屋市

市長 中西 茂

対新春談

2020年は、「東京オリンピック・パラリンピック」や「かごしま国体・かごしま大会」が行われるなど、スポーツに注目が集まる年です。そこで、鹿屋体育大学の松下学長に、その取り組みや市との連携、「スポーツのまちかのや」の展望などについて、中西市長と対談していただきました。

国立大学法人
鹿屋体育大学
学長 松下 雅雄

松下 雅雄氏



撮影協力：鹿屋体育大学スポーツパフォーマンス研究センター

最先端設備を備える 鹿屋体育大学

市長 本日はご多忙のところお時間をいただきありがとうございます。私が出張などで東京に行き、鹿屋市から来た話をすると、「鹿屋といえば体育大学があるまちですよ」とよく言われます。鹿屋は体育大学があるまちということで多くの方に知られているように思います。

松下学長 本学は昭和56年に開学し、昭和59年に学生を初めて受け入れました。40年近い歴史を持つ大学で、1期生は現在55歳くらいになっています。

ここスポーツパフォーマンス研究センターは、市からも大きな支援をいただき、平成27年3月に設置されました。一番の特色は、陸上の50mレーンに「フォースプレート」が敷かれていること。選手が自身のペースと歩幅で走りながら、スタートからの足並みを前後・左右・上下の力の3方向で計測・データ化できるほか、フォームなども計測できます。

また、野球のマウンドとバッターボックスでの同時計測や、ボールの球速や回転数、回転軸についてデータを取れる優れた設備もあります。そのほかサッカー選手の動きを上げから測定・データ化するシステムで、フォーメーションなどの作戦を練る

ときに活用できる設備もあります。実際のプレー中の測定ができることがこの施設の売りですね。これまでもたくさんのお客様が訪れています。

開かれた大学へ

松下学長 地域との交流としては、以前から公開講座を実施しています。講座はスポーツ系から健康系、教養的なものまで様々。ほかにも、地域の方に大学を知ってもらい活用してもらうために、「体育の日」に施設を開放してきました。

それでも「大学は入りづらい」とよく言われていたので、2年ほど前から、もともと地域の方に学内に来てもらいたいと、大学が地域に向けた取り組みをする「日本版NCA」という事業に手を挙げました。そして地域の方が大学に来てもらえるイ

ベントを試行錯誤しながら考え、平成30年に二つのイベントを始めました。

一つは、学生が企画して市民が参加し、みんなで楽しめる市民運動会「かのやエンジョイスポーツ」。市長に名前をつけていただきましたね。もう一つは、せつかく高いレベルの学生たちがいるので、そのホームゲームを地域の方々に観戦・応援してもらえたらと始めたイベント「カレッジスポーツデー」です。バスケットボールやバレーボール、サッカーの九州地区リーグ戦が行われる春と秋に開催しています。この二つのイベントが地域交流の目玉です。

市長 いま学長からお話のあった二つのイベントや市主催の「スポーツフェスタ」を体育大学で開催できるのも、大学のご協力あつてのことです。体育大学を訪れたことがない方も多いかもしれませんが、いまでも市民が大学を訪れ、色々な所を見学し学生と交流されていることは、大変有り難いと思っています。

一つエピソードがあります。市内在住の高齢の女性が、娘さんと一緒にカレッジスポーツデーでバスケットボールの試合を観られたそうです。その時に、お孫さんと同じくらしい学生が一生懸命試合をしている姿に大変感激され、これからも体大

生を応援したいと思われたのだそうです。これは学生と市民が非常に近くなり一体感が生まれたということを表す、まさに交流の成果だと思っています。学生の皆さんも地域のために頑張ろうという気持ちになっているのではないのでしょうか。ただ、交流は始まったばかりです。今後色々なことを提案させていただきながら、さらに交流の輪を広げていければ有り難いです。

県内一のスポーツ合宿

市長 鹿屋市には、国内・海外から県内最多である年間約2万4千人のスポーツ合宿者が来ています。これは、体大があることが大きな強みになっているほか、全国にいる体大OB・OGで指導者やプロ選手の方々が、教子などを鹿屋に連れてきていただいていることも大きいと思います。練習相手がいって合宿施設があることに加え、大学が持つ人脈ネットワークのメリットを最大限に生かしているのではないのでしょうか。

また、合宿者のおもてなしや宿泊会場までの輸送などを一体的に引き受けようと、宿泊施設・バス会社・弁当事業者・体育協会などと一緒に「かのやスポーツコミッション」による受け入れ体制も整備しています。これらを生かし2万4千人の合宿



Blue Winds
鹿屋体育大学と市では地域密着スポーツブランド「Blue Winds」を生かしたイベント等に取り組んでいる。

者を今後さらに伸ばしていこうと思っています。今年にはオリンピックや国体があるので、スポーツ合宿にさらに熱を入れて取り組んでいきたいです。

松下学長 合宿者が単に自分たちのトレーニングをするだけでなく、体大生と練習できることは、鹿屋での合宿の特色だと思います。そして、大学の施設を使って測定・分析・フィードバックができるといったことも、全国でも中々ない特長です。

学生も、選手を測定する実際の場に立ち会えることで、スポーツを「ささえる」部分での勉強ができる機会をもちっています。また、鹿屋から練習相手を求めに行くよりも相手に来ていただくほうが、費用的にも有り難いです。鹿屋のスポーツ合宿の特色を出すお手伝いもできるし、本学の学生を育てるチャンスにもなっているというのが、スポーツ合宿ではないかと思っています。

松下雅雄学長の主な経歴

昭和48年東京教育大学体育学部卒業。
昭和62年から鹿屋体育大学体育学部で、スポーツ方法学と海洋スポーツの専門分野を指導し、平成28年から現職。